

るるる



今号の表紙

寿幸苑 医務室

PICK UP

- 1 いっしょに支える - 寿幸苑 医務室 -
- 2 あつまれ どうぶつの写真 !!

HELLO! NEW STAFF

鯉谷さんのひとりごと

寿幸苑 医務室

いっしょに支える。



ケアについて話し合う介護士の名生さん・山口さんとナースの平田さん

入居者さんが少しでも健やかに過ごせるように考え、寄り添うナースさんたち。介護士さんと協力しながら、日々の暮らしを支える姿を追いました。

新型コロナウイルス感染予防のため、面会を制限し、病院受診やリハビリ通院も控えていた寿幸苑。その苑内では、食レクをしたり、イチゴ狩りをしたり、屋上菜園を始めたりと、それぞれが入居者さんのために動いていました。そして日々主導する介護士さんや職員の傍らには、入居者さんに寄り添い、助けてくれるナースさんの姿が。「ここはレクも盛んだし、それぞれが入居者さんの暮らしを守りたいという姿勢を持っている。だから協力したいし、大変そうと思ったら助けたい」(上野Ns)。不穏な入居者さんがいれば苑内散歩にお連れしたり、お話を傾聴したり。日々の会話に和んだり、レクがある時は一緒に楽しんだり。嬉しいことも、悩ましいことも共有する姿が日常的に見られます。5月に入職した河野Nsは「前の職場は職員が少なくケアや心配りが行き届いていなかった。ここは若い介護士さ

んもしっかり入居者さんのことを考えているので分からないことを聞くとすぐ親切に教えてくれる。相談や話し合いがしやすい」と言います。若手ながら経験豊富な平田Nsも、「いろんな現場で働いてきた中でも、寿幸苑は入居者さんを思いやる意識が強い。何かの処置についても、質問したり、相談したりしてくれる。誰かに任せきりにするのではなく、みんなが専門家になったら良いな。話して意見を出し合うことが大切だと思う」と話してくれました。



ナース
金さん

寿幸苑は介護士さんが現場をよく見てくれていて、観察力もついていると感じます。穏やかに良好に連携できているので、これからもこの調子で、情報の共有や助け合いを大切にしたいと思います。

寿幸苑 医務室

特別養護老人ホーム

住所：大阪市生野区林寺4-13-14-1F／従業員数：9名



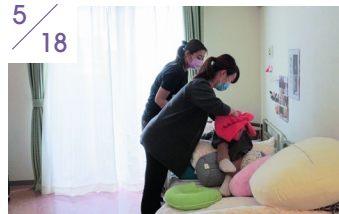
回診で具合を診る濱口Dr



日々処方箋を作成する鈴木さん

るるる日誌 - 日々のできごと -

5/18



床ずれや拘縮(こうしゅく)を予防・改善するために話し合う平田Nsと斎藤CW。入居者さんにとってどうすればより良い体位になるかを考え、真剣に模索していました。

5/19



隔週火曜日、鄭先生と上野Nsは心療内科の回診へ。2階から6階まで、入居者さんや介護士さんの話を聞きながら改善策やお薬の処方などを考えていました。

5/29



医務室でお薬のチェックをする栗原Nsと河野Ns。学生時代に同級生だった2人。入居者さんの話から何気ない話まで、時に真剣、時に和やかに話していました。

あつまれ どうぶつの写真 !!

いろいろある この頃ですが、結局のところ、
人の心を癒してくれる大きな1つは動物なのでは？ と思います。
ということで、今回は職員にラブなペットたちを紹介してもらいました。

聞いた人：寿幸苑、居宅、ヘル
パーステーションの職員さん

「生後3ヶ月の時に音田家へ来ました。趣味は散歩で、食べることが大好きです（好物はカンガルーの肉!）。7ヶ月の時に家出して半日行方不明になりましたが、23時頃に帰宅。心配していた家族をよそに、肉をたくさん食べていました」

柴犬の
ジュニアちゃん

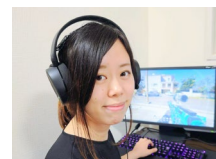


飼い主さんのこと

「ジュニアは一番の話し相手。自分に似て思慮深く、愉快的男前」と語るドライバーの音田一弘さん。ふだんは「地域みまもり隊」やバンドのメンバーとしても活躍しています。

「メルちゃんはペットショップで一目惚れして、うちの子になりました! 一人では寂しいだろうと思いノルちゃんも家族に。一緒に遊んだり寝てたりする所が親子みたいでかわいいです。鼻の上をなでてあげると口があいちゃう所も好き♡」

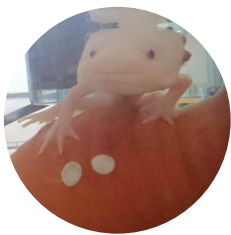
猫のメルちゃんと
子猫のノルちゃん



飼い主さんのこと

何事にも一生懸命取り組む一方、ほんわかした雰囲気でも周囲を和ませてくれる樋上杏奈さん（寿幸苑 管理栄養士）。ゲーム好きで、オンラインやパソコンを使って遊ぶことも。

ウーパールーパーの
サンタマリアちゃん



「長女がおばあちゃんに行った東大阪のふれあい祭で出会い、『ママに似てる』と母の日のプレゼントでもらいました。癒されるポイントは、（目があまり良くないので）エサをあげる時に割り箸で口元まで近付けるとパクッと食べる所です♡」

飼い主さんのこと

いつも笑顔で入居者さんに接し、テキパキ仕事をこなす松下真菜美さん（寿幸苑5階勤務）。爬虫類系が好きで、前はドジョウを飼っていたことも。明るく楽しい人柄が魅力。



トイプードルの
長谷川ちゃん



「現在8歳。まだまだ やんちゃな年頃です。動物病院に行く時は、『山本の（飼い犬の）長谷川』とちよびり説明が面倒です。私が定年退職する時に15歳になり、犬の平均寿命を迎えるので、その際は手厚い介護をする予定です」

飼い主さんのこと

日々在宅のご利用者さんをサポートする山本知子さん（居宅介護支援事業所ケアマネジャー）。行動力があり、美味しいお店の情報通。長谷川ちゃんと車で遠出することも。



「知り合いが飼えなくなったので、わが家にやって来ました。怖がりな性格でなかなか頭もなでさせてくれなかったけど、今はちょっとだけ犬らしくなっています。帰宅した時や、おやつがほしい時のうるうるおめめがとってもかわいいです!」

マルチーズmixの
小梅ちゃん



飼い主さんのこと

在宅のご利用者さんを支援するため、日々自転車で町を走る葭原充子さん（ヘルパーステーション管理者）。サバサバした人柄で、家族のお世話も頑張る働くお母さんです。

「『メラノタエニア・ゴルディエイ』という熱帯魚を飼っています。むかしから魚が大好きで、見ているだけで綺麗な色に癒されるので、週1回の水換えも苦になりません。次は水槽のサイズアップをもくろんでいます…!」

熱帯魚の
メラノタエニアちゃん



飼い主さんのこと

パソコン関係に強く、最近では入居者さんとご家族のSkype面会を主導した吉原雅祥さん（寿幸苑5階勤務）。行きつけの熱帯魚ショップがあり、電車で通ったりしています。

各事業所で、ときには外にとびだして、最近行なわれた さまざまな活動をご紹介します。

1 黒板で悠々と泳ぐ鯉のぼり

日時：4月30日（木） 場所：ライフエル駒川

新型コロナウイルスの影響で人が集まる機会が減っている昨今、コミュニティスペース「イマ」の黒板アートが“子どもの日”仕様に。楽しみに見ている人のため、ケアワーカーの西さんが夜勤の合間にコツコツ描いてくれました。



2 外食できないので、中食を

日時：5月6日（水） 場所：サボテンの花

感染予防のため、外食レクを中止しているグループホームサボテンの花。そこで職員がマクドナルドへ行き、入居者さんのためにハンバーガーやフライドポテトをテイクアウト! 久しぶりのファーストフードを楽しんでもらいました。



3 苑全体でイチゴ狩り

日時：5月8日（金） 場所：寿幸苑

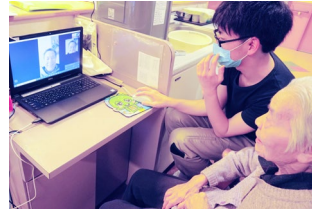
6階が主催し、大好評だった屋上でのイチゴ狩り。第2弾は他フロアにも事前に呼びかけ、たくさん入居者さんが参加。「外に出ると気持ち良いわぁ」とのお声も頂きながら、職員が吊るしたイチゴをそれぞれがもぎって食べました。



4 Skypeでオンライン面会

日時：5月16日（土） 場所：寿幸苑

面会制限により、会えない状況が続く入居者さんご家族。そんな中、5Fの吉原CW主導のもとSkypeを使ったオンライン面会がスタート! ネットを介した久しぶりの再会に、つかの間時間を忘れて嬉しそうにお話されていました。



Hello! NEW STAFF



ケアワーカー
北野 幸治さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
久保 未夢さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
藤川 清道さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
松野 夏海さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
南 真由子さん
(サボテンの花)



ケアワーカー
永田 俊延さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
楠原 みつきさん
(寿幸苑)



ケアワーカー
濱田直也さん
(ライフエル駒川)



ケアワーカー
山口 瑞輝さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
中瀬 正和さん
(寿幸苑)



ナース
河野 登希子さん
(寿幸苑)



ケアワーカー
勝島 浩子さん
(ヘルパーステーション)

※4月～5月末の入職者を紹介しています

鯉谷さんの



ひとりごと

No.006

感謝

職員みんなには感謝しかない。自分がうつしてしまうリスク、自分がうつるリスクも感じながら、緊急時でもそれぞれができる事を考え工夫しながらみんな頑張ってくれている。僕たちは「ない」ことに気づくのは簡単だが「ある」ことに気づくのは難しい。マスクも無くなって初めて気づくし、大切な人も居なくなって初めて意識ができることもあると思う。僕たちは、「ない」こと、あるいは「ない」ことを想像することを通して「ある」ことのありがたみや大切さを感じることができる。僕自身、今回のコロナ渦を通

して職員のありがたさを改めて感じた。フランスでは死者の4割は介護施設から出ている。日本でも介護施設が崩壊すれば医療崩壊に直結し、死亡率が急増してしまう。だから介護施設で感染を防ぐことは地域にとっても日本にとっても至上命題だ。感染拡大がいつ起こってもおかしくない中で懸命の努力で何とか防いでくれている職員にあらためて感謝しかない。もちろん、職員だけでなく、入居者さん、家族さん、関係事業者の方、みんなの努力で今がある。第二波は必ずくる。引き続きよろしく願います。

